

ご挨拶

ここバンドンは、インドネシアの首都ジャカルタから東南に約200km離れた西ジャワ州の州都で、第二次世界大戦後に独立したアジア・アフリカの諸国代表が1955年に集った「バンドン国際会議」の開催地でもよく知られています。バンドンは赤道からわずかに南に位置していますが、その中心地の標高は海拔700m超、四方を標高2000mクラスの高山に囲まれ、熱帯に位置しながらも涼しく大変過ごしやすい環境にあります。また、バンドンは一年中美しい花が咲き、緑と太陽の光に包まれた美しい学園都市でもあります。

本校は1933年に設立されたものの、戦争の激化により1941年9月に閉校。その後1977年、新たにバンドン・ジャパンクラブ（BJC）により日本語補習授業校として始まりました。そして、1984年に日本人学校として認可され、4月18日を開校記念日し、本年度、開校40周年を迎える歴史ある学校です。

一方、幼稚園から中学部といった幼・小・中一貫教育や少人数・小規模の特性をいかした温かく家庭的な雰囲気が本校の特色の一つでもあります。また、ここ数年、児童・生徒数が減少しておりましたが、昨年度より増加傾向に転じ、本年度は約20年ぶりに園児・児童・生徒数が30人代となりました。

本校に勤務する文部科学省派遣と現地採用の全教職員は、常に愛情をもって子どもたちに寄り添い、強い使命感と責任感のもとで子どもたちに向き合っています。そんな教職員のもと、明るく素直な子どもたちは、心身ともに健やかに成長し、本校卒業後、そして帰国後も各方面で活躍しています。

本校では学校教育目標を「**心身共に健康で、豊かな人間性を備え、国際社会の中でたくましく自立して生きる児童・生徒の育成『太陽の子・バンドンの子』～明るい心・頑張る力～**」と定めています。特に、『信頼される学校・魅力ある学校づくり』と共に『信用・信頼される人づくり』をめざした教育活動を展開しています。

縁あって本校で学び、学校生活の時間を共有することになった子どもたち。海外で生活しているゆえの不自由さは少なからずありますが、だからこそバンドン日本人学校で過ごす時間を楽しいものにしていきたいと願っています。ここで言う「楽しさ」とは、単に「愉快」あるいは「楽（らく）」な学校生活のみを指すわけではありません。バンドン日本人学校で過ごす時間は、本校の良さの一つである優しい雰囲気に包まれ、教師との距離も近く、少人数かつ家庭的な温かみのある学校生活を送ってもらいたいと願っています。一方で、学校

は子どもたちが力を付け、伸ばす場でもあります。いつの日か日本の学校や社会で生活する際に困ることがないようにしていくことも、本校の大きな使命・責務であり、そのことが「信用・信頼される人づくり」につながると考えています。学力を伸ばすことは、時には厳しさを伴う鍛える側面も必要になります。学力のみならず、自らの生き方を方向付ける力や律する力、道徳性、安全に過ごす力などを伸ばし定着させるためには、時には厳しさを伴うこともあるでしょう。このように「優しさ」と「厳しき」を両立させてこそ、「信頼される学校・魅力ある学校」に近づき、「バンドン日本人学校で学んで良かった」と思える学校教育を実現できるものと考えています。

また、在外教育施設のバンドン日本人学校ならではの教育にも力を注いでまいります。「小規模校・少人数学級の強み」や「児童生徒全員が活躍する学校行事や集会活動」もそして「異文化理解を根底にする国際感覚の醸成」、さらには特別支援学級が今年度から新設される中での「特別支援教育の充実」とりわけ「多様性を認める共存の価値概念の形成や風土づくり」も、教育活動の柱としています。

これらの理念の下、“**チームBJS2024**”全スタッフが一丸となって教育活動を展開していく所存です。

是非、本校の教育活動の様子をこの学校HPでご覧いただき、ご都合が許せば、子どもたちの元気な姿を直接ご覧いただけると幸いです。

令和6年4月

バンドン日本人学校

校長 吉田 浩一 (Koichi Yoshida)

